

The IRON BRIDGE & TOLLHOUSE

アイアンブリッジと料金所

最後の氷河期である約 1 万 5,000 年前、ウェールズ山脈の西側の大きな湖により、石炭、鉄鉱石、白土そして石灰石の層に深い亀裂が発生し、峡谷が生まれました。この豊富な天然資源と、セヴァーン川からブリストル湾への迅速な輸送経路により、この峡谷は産業革命によって世界で最も活気のある場所となりました。ダービー家がここへ移住するまでに、多くの天然資源が採取されていました。この峡谷では、ヘンリー VIII 世の時代から鉄の製造が行われていましたが、1709 年にアブラハム・ダービー I 世が初めて木炭の代わりに石炭を利用して鉄を製造し、より安価に大量の鑄鉄を作ることができるようになりました。



この新しい素材の開発を最優先に峡谷は産業の街へと発展し、1750 年代には 6 隻のフェリーが川を運行し、鉄の生産に必要な人や素材などを運搬するようになりました。しかしセヴァーン川は、夏は水位が下がり、冬には水量が増え流れが早くなる特徴があり、渓谷の産業はこの影響を常に受けていました。そのため新しい橋が必要だと考えたアブラハム・ダービー III 世は、これを鉄の品質の向上および生産拡大の絶好の機会と捕らえ、アイアンブリッジ建設の計画を提出しました。

アイアンブリッジの建設

アイアンブリッジの原設計は、邸宅の修復を専門とするシュルーズベリー州の建築家、トーマス・ファーノルズ・プリチャードが担当しました。それまでの橋は石や木材を使用しており、鉄製の橋は当時として画期的なものでした。トーマスは、鑄鉄製の橋の設計について、地元の製鉄業者ジョン・ウィルキンソンにアドバイスを求めました。

ウィルキンソンは、鉄を使って物を作ることに強いこだわりをもっていただけのため、「アイアン・マッド (鉄狂い)」と呼ばれていました。ウィルキンソンら地元の企業家たちは、橋の設計をアブラハム・ダービー III 世に提案しました。またウィルキンソンは、この歴史的な橋の建設に多額の寄付を行いましたが、後にアブラハム・ダービー III 世に自分の株式を譲渡しています。一方、若くして亡くなったトーマス・プリチャードの跡を継いだアブラハム・ダービー III 世は、プロジェクト全体を通して資金の調達に貢献しました。

橋には **384** トンの鉄が使われていますが、これはダービーの溶鉱炉 **1** 台の **3** ヶ月の製造量に相当します。驚いたことに、鑄鉄製の部材がどこで製造されたのかは特定されていません。一般にはダービー溶鉱炉 (橋から約 **2.6 km**) とされていますが、当時は峡谷全体がコールブルックデールと呼ばれていた (後年アイアンブリッジと呼ばれるようになった) ため、ホースヘイの町 (橋から約 **4.8 km**)、あるいは橋からわずか **450 m** の川沿いにあるベッドラム溶鉱炉で鑄造されていた可能性もあります。**1801** 年、ある聖職者がアイアンブリッジの鉄は「現場で砂で型を作って鑄造された」ことを発見しました。鑄鉄製の部材はとても大きくて重く、また脆いため、運搬がとても難しく、建設現場の近くで製造することが最良の方法でした。鑄造、輸送そして資金集めなどの問題を乗り越え、ようやく、世界初の鉄製の橋が落成したのです。

アイアンブリッジの料金所

橋の開通は何度も延期されましたが、**1781** 年の元旦に開通式が行われました。料金所は、橋が開通する前に建てられたと考えられていますが、当時の橋を描いた絵には料金所は描かれていません。**1780** 年代に、ダービーが橋台の建設を指示したことは確認されており、同じ時期に料金所が作られたのではないかと考えられています。また料金所は **1835** 年に拡張され現在の姿になっています。**1776** 年のアイアンブリッジに関する法令には、「通行料は変更されず、特許使用料は免除されない」との一文が含まれています。これは今も、料金所で見ることができます。

アイアンブリッジは「産業発祥の地」として世界中に知られています。



www.ironbridge.org.uk